

平成20年度第1回外部評価委員会議における評価結果一覧表

(平成20年8月5日実施)

園芸試験場分抜料

※ 評価結果の評点は各外部評価委員の評点の平均値で、判定は平均値による判定です。

園芸試験場					
課題名		実施年度	内容	評価結果	
事前1	消費者・生産者が求めるカキの革新的栽培法の確立	H21～25	柿栽培の中心である水田転換園での生産が不安定。栽培者の女性化や高齢化が進行し、軽労技術が求められている。消費者の求める高品質なカキ生産、生産者の求める省力、軽作業、高品質、生産安定技術等の取り組み可能な技術を開発する。	評点	16.0
		委員の意見	○水田での柿生産が害なく作れるようになって、生産、消費量が伸びることを期待したい。平地で作れることは、農家にとってよいこと。 ○西条柿は県の特産品としての価値があると思う。是非、品質の向上に向けて試験研究を進めてもらいたい。 ○テーマを少し絞ってはどうか。	判定	○
事前2	有機・特別栽培支援技術の確立(仮称)	H21～24	有機・特別栽培を行う上で、病虫害防除対策の確立を望む声強い。防除技術については、他都道府県でも研究されているが、栽培条件(気象条件や作型等)の違いにより、その成果をすぐに活用出来ないのが現状。そのため、鳥取県の栽培条件に合った、有機・特別栽培で活用可能な防除技術の確立を図る。	評点	19.8
		委員の意見	○ニーズが高いために、もっと効果的な方法はないのかと思う。	判定	○
事前3	中山間地基幹品目および土地利用型野菜の栽培法確立	H21～24	中山間地域の基幹品目である夏秋トマト、白ネギおよび夏秋ピーマンの安定多収栽培技術を確立するとともに、低コスト・省力化を図る。また、初夏、秋冬どりブロッコリー、冬春キャベツ等の土地利用型野菜の作型および栽培技術を確立する。	評点	16.7
		委員の意見	○中山間地は高齢の生産者も多く、負担の少ない野菜生産は望まれるところ。 ○初夏取りブロッコリーへの期待が大きい。この時期の地元産が欲しい。 ○中山間全域で大いに活用して貰うよう、普及して欲しい。ブロッコリーについては期待が大きい。	判定	○
事前4	未利用農地等を有効利用する花き類の(露地)栽培技術の開発	H21～25	花き品目の中には、一度露地に定植すると、数年間栽培可能な枝物や宿根草など、省力で未利用農地向きの可能性を持つものが多数ある。高齢者向き(省力)栽培と、未利用農地積極利用(高品質、労力分散、品目組み合わせ)の観点から試験を行い、実用可能な技術を組み立てる。	評点	15.3
		委員の意見	○花は、農家の副業として収入が見込めるので、成果に期待したい。 ○大きな効果というより、未利用地の有効利用という点で評価したい。	判定	○
事前5	気象変動に左右されない花き類の開花制御・高品質化技術の開発	H21～25	花き類は近年の著しい気象変動によって、出荷の計画が大幅にずれたり、品質が著しく劣ることが多い。加えて燃料費等生産コストの急増により、経営的な危機を迎えている。そこで、「計画的な生産を可能とする開花制御技術」、「気象変動に負けない高品質花き生産技術」、「燃料・資材等を削減した高品質花き生産技術」を確立する。	評点	18.1
		委員の意見	○効果を示すことは困難に感じます。	判定	○
中間1	弓浜砂丘地野菜の栽培技術の改善と特産品開発	H18～22	白ネギを除くニンジン、サツマイモなど弓浜特産野菜の生産安定・多収栽培技術、高付加価値化技術を確立する。	評点	13.7
		委員の意見	○効果を示すことは困難に感じます。	判定	○
中間2	市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸品種の育成	H18～22	本県特産の果樹・野菜・花きの競争力を強化するため独自品種を育成し、生産の安定化を図る。	評点	17.3
		委員の意見	○手間の少ない、品質の良い新品種は今後も望まれる。 ○オンリーワンの品種育成に重点化すれば、研究費の重点投資をすべき。	判定	◎

【概要説明分】

園芸試験場					
課題名		実施年度	内容		
事前	「なつひめ」等青ナシオリジナル品種の栽培技術の確立	H21～25	青ナシオリジナル品種の栽培技術を確立することにより、早期に新品種の導入を進める。味のバラツキの多い8月は糖度の高い新品種、9月は旬の二十世紀という青ナシリレー出荷体系を確立する。		
	「新甘泉」等赤ナシ新品種の省力安定栽培技術確立	H21～25	赤ナシ新品種の栽培技術を確立し安定生産技術を確立する。さらに交配不要、無袋栽培、誰でも取り組み易い省力整枝法等を導入して栽培面積拡大と所得向上を目指す。		
	人と農にやさしい低コスト型ラッキョウ生産技術の確立	H21～25	鳥取県砂丘畑の特産品であるラッキョウの高品質・生産安定のための栽培技術の確立だけでなく、低コスト・省力化や環境への負荷軽減を図りながら、消費者に安全・安心なラッキョウを届けるため人と環境や作物にやさしい有機栽培法の技術確立を図る。		

【委員からの主な質疑・意見】

- 健康志向の現代、果物や野菜について健康によい、体によいといった視点でPRし、販売をしてはどうか。
スイカが夏バテ防止によいとか、ラッキョウに抗酸化作用があるとか知られて、そういうPRが行われている。
ナシについて調べてみたことがあるが、効果が見あたらない。《園試》